

“生命の科学”を学習するにあたって！ 基本的姿勢

私は読者から、次のような質問を受けました。「宇宙哲学の知識は」書物によつて得られるだろうか」答は「イエス」ですが、質問に直接答えて問題を討議できる教師につくほうが早く理解できます。書物による場合は、研究する事柄の一部を読んだあとでその印象を書きとめる事は助けにはなりますが、更に日常生活で応用するならば、教師につくことのできない人にとって最上の方法となります。

いずれにしても、計画しているまじめな研究に熱中するならば、当然教師につくことによつて急速に進歩します。俗人のすべては過失をおかしやすいのですが、何よりもまず信念をもち、教師に信頼を寄せねばなりません。

自己の研究から何かを得ようと思えば、過失であわてたりしてはいけません。

研究者は進歩してゆくあいだにきつと多くの失敗をやるでしょう。自分を正しい姿勢に正さねばならないでしょうし、それは時として不愉快かも知れません。しかし、このことを理解した上で学ぼうという決意があるならば、それはゴールに到着する助けとなるでしょう。

……もし読者が通信講座(注“生命の科学”)にせよ直接にせよ、この深遠な研究を行なおうと決意したならば、何が起ころうと問題にせず、ゴールにおかたてたまを打ちまくる決心が必要です。そして生命のすばらしい奥義について何も知らない他人の意見に耳を傾けないことです。

もし、どうしてもこれを行なうことができないならば、あなたは現状のままに留まるのがよいでしょう。この態度(断固たる決意をもつた態度)が保てないならば、あなたは混乱の生命以外の何物をも得ないからです。これまでに与えられたいかなる教えとも異なるこの新しい深遠な研究を行なう場合は特にそうです。

〔空飛ぶ円盤とアダムスキ P55~P56〕

○「生命の科学・講座」を学習する人のために

第一回 重要解説とこの講座の目的 古山晴久

「生命の科学・講座」を学習しようとする人は、第一課を始める前に知っておかなくてはならない重大な事がありますので、以下に、その事をお知らせい

たしましょう。

受講者が、この講座から最良の成果を得ようとするならば、あなたは、手もとにペンと紙(ノートブック)を用意しておく事が大切です。あなたが、個々のページと行を学習する際、その個所から受けとめた印象のそれぞれを、すばやく書きとめなさい。一度に、あまり多くを学習してはなりません。そして、次のページへ進む前に、あなたの受けとめたすべての印象を書きとめておく-----というやり方によって得られるでしょう。

全講座を学習し終ったら、ふたたび第一課から、学習をやり直して下さい。こんどは、あなたの印象が変わっていることに気がつくでしょう。それにもかかわらず、それらの印象類は、あなたが最初に受けた印象と調和するでしょう。これは、自己を拡大させるための過程です。そのようにして、受け取った、あなたの印象を書きとめながら、この講座を何度もくり返し学びなさい。そのおのあのの学習において、あなたは新しい印象を得るでしょう。このことは、あなたが講座を学習するにつれて、より高い段階に自己を進化させていることを表わしています。このようにして、あなたはあなた自身に対する教師になるのです。常に、ノートをすることを忘れないようにして下さい。時々、これらのノートをくり返して読み、どんなふうに、このノートが互いに融合するかを見るようにして下さい。

このことは、あなたが、この講座から新しい印象というものを、もはや、受けとめなくなるその時まで、続けて下さい。しかしながら、「生命の科学・講座」は、人間の宇宙的知覚を発達させることを目的としていますので、この講座の学習に終りというものがあることはありません。とき限のない新しい印象が、講座を再度、学習するたびに、やってくるでしょう。そうこうしているうちに、あなたは、独自の本を書きあげています。あなた自身の成長を、継続させようとするならば、あなたがノートをしながら、その日まで進んできたのと同様にそれ以後も、これと同様の過程に従いなさい。こんなふうにして、あなたは、それ以上のいかなる援助もなしに、あなたが生きている限りにおいて、自己を成長させ続けるのです。あなたは、真の自分というものを、その段階において、自分に対しての教師とするでしょう。受講者が、これらの方法を用いるならば、生命のいかなる分野においても、学習に終りというものがあることはありません (UFO教室・第3号 P10~P11)

・毎日読みたいこと

一日に一課の少なくとも一ページを読み直して、その中に述べてある事柄を思い浮かべながらその日を送るのは賢明です。そうすればいつのまにか多くを身につけている自分に驚くでしょう。

(生命の科学 p157)

想念観察

◦自己訓練法

日常生活を通じて、あなたの想念を抑制し続けようと思うならば、次のような容易な方法がある。まずノートブックを用意して、左ページには、“非利己的想念”“理解に満ちた想念”“自分と全生命との宇宙的な一体性を思い出させるような想念”などが起った場合にそれらを書き記し、右ページには、“利己的、不安、不満、他人に対する非難、結果だけを見て原因を見ない”想念類が起こつた時にそれらを書きとめる。

あなたは、自分の想念の動きに対する観察者となり、右の各想念を片っぱしから記してゆく。一日の終りに総計を出す。この方法が一定期間行なわれると、あなたの心と肉体に混乱や病気を起こしていた古い習慣的想念は消滅するであろう。

(宇宙哲学 p121)

◦印象の観察

私の次の段階は、各感官の訓練と心によって感受される“印象”の観察でなければならぬことに気づいて、私はある一定の計画に従う事に決めました。これは一種の精神台帖になるものです。すなわち、一日を通じて感じた想念で個人的性質を帯びているものすべてを一方におき、他方には私の行動のもととなつた宇宙的な想念を記録したのです。毎日の終わりに、偏狭な個人的な意見かまたは宇宙的な洞察力がその日を支配したかどうかをきめるために、得点数を集計していったのです。

これには全く大変な忍耐を要しましたが、ついには私の各感官に聞き耳をたてさせて、たしかに外部から来る印象を感受し得るようになることができました。実際、これを行なうのは最も困難なことでした。古い考えが強情に顔を出して私の心にその解釈を与えるからです。しかし、

“^{センスマインド}感官の心”を抑制し続けるうちに、私の受ける“印象”は明瞭になってきて、次第に多くの宇宙的性質を帯びた想念を含むようになり、個人的意見は少なくなってきました。

(テレパシー P40)

。習慣的な考え方をすてること。

あなたは自分の感情を支配し、コントロールしなければなりません。あなたの習慣的な考え方が、真の状態における物事を見きわめようというあなたの願いに対して反対しようとしても、失望してはいけません。記憶すべきは、あなたはこれまでずっと自分の習慣的な想念を自分でつくっていたという事です。忍耐こそはあなたの周囲に見るすべてのものとあなたが一体であることを気づかせ、人間の作った分裂というものが誤っている事を悟らしめるでしょう。

第二の段階に入るまでに、あなたは自己訓練をする必要があります。それで私がおすすめしたいのは、日記帳を用意して、一日中にあなたに影響を与えた想念や感情をチェックし続ける事です。想念、感情の1つ1つを注意深く書きとめて評価し、(善、悪の両方とも)、それらがその日のあなたの生活に及ぼした影響を調べてごらん下さい。

(テレパシー P53~P54)

“想念観察”

(以下の文は、51年度GAP総会からのものです)

質；想念観察について詳しく説明して下さい

答；これはですね、想念観察手帖というものを前に作って、そして、その手帖の中が、左ページが宇宙的な想念のページ、右ページが非宇宙的ですね、こういうふうに分けて、さらにまた細かく項目を分けて、「親切さ」それに対応して非宇宙的な方は「不親切」とか、あるいは「愛の心」とか、またその反対の「憎しみ」とか「憎悪」とか、こう何項目かに分けてあるんです。そしてそれによつてまあ、自分の想念が一日起こる想念を観察しまして、どんどん印をしてゆくわけですね、これはもうありませんので、お分けするほどはないんですが、私の方へ手紙で御連絡頂ければ、一、二冊まだ手元にありますから、その一ページでも切り取ってお送りしてもよろしいのですが、だいたいにおきまして人間の宇宙的想念と非宇宙的想念を二つに分けてはつきりと記せるようになってます。Z

月 日	宇宙的 (左ページ)	利己的 (右ページ)
宇宙の創造主との一体。自分と全生命との宇宙的な一体性を思い出させるような想念	他人に対する積極的な親切。愛。奉仕的な活動 平静な楽しい感情、仕事に対する積極感。感謝の心。現象の因果関係を考える	自分と全生命との宇宙的な一体性を思い出さない孤立感。宇宙の英知に対する疑惑 他人に対する憎しみ。悲難、シツ、怒り、ゴウマン。落ちつかない。イライラした感情。不安、恐怖、仕事に対する急情感。利己的物欲、過度に官能的刺激を求め、不満、現象因果関係を考えない
 <p style="font-size: 1.2em;">かて日本GAPが製作した想念観察手帖</p>		
<p>→ この方法はですね、実際はあの、いかなる宗教団体、あるいは修養団体もやっていない人ですね、何でも</p>		

ないような事ですが、これは実際は、人間を向上させる最高のすばらしい方法だと思えます。ですが、なかなか自分の想念を観察してこれを記録するという事は、たいへんな事ですから、中にはそんなことができるはずがないとか、想念観察をやると気持ちいになるという人もありますが、そういうことはないですね。ただ大変な努力と忍耐力を要するということは確かです。想念観察といいますが、想念感情の観察ですから、怒りの感情が起これば、当然それは自分がすぐに観察していて、たいへんな怒りの心を起こしたと、さらにそれを測る尺度のようなものがあって、この怒りは、今何度ぐらいに達しているとわかればいちばんいいんですが、ただそういうふうなメーターのようなものが発明されると、これまたいちばんいいんですけど、そこまでまだありませんから、自分で適当にきょうの怒りは大変なものであったというふうに記して、そして、これじゃあいけない、この怒りを静めておしる逆に宇宙的な想念を起こそうというふうに、意識的に内部に宿る“宇宙の意識”ですねエ、“コスミック・コンシャスネス”これをフーリングでもって感じるようにしようというのが想念観察でして、ただ観察して記録すればそれでいいというわけじゃないんですね。

それにつきまして今度の60号の巻頭言に「宇宙の意識」つまり「コスミック・コンシャスネス」という題で、私ちよつと余計なことを書きますが、人間だれしも——アダムスキーはいやというほど言っていますが——自身の肉体を生かしているのは、宇宙の創造主(クリエイター)のそのパワー、あるいはインテリジヤス、英知ですねエ、あるいはコンシャスネス(意識)そういうものが中に宿っているんだと、……それはそうでしょうね、これだけの精密な身体をほかの外部の第三者が創りあげたということは不思議なことですが、そこには明らかに何かのすごい英知があると、知性があるということがわかります。頭が良いとか悪いとかの知性じゃなくて、もう人体そのものを物凄く精密につくりあげた知性、——これをさらに考えてみますと、われわれは自分のからだを維持している70年、80年なりずっと維

持して創りあげてる何らかのパワーがあるはずなんで、それを自分が意識しているか——意識しているというのは、表面の心へ自覚している限り、私たちにとってこれくらい大きな心強い支持者はないのであつて、他人というものは案外あてにならないんですね、人は信用できないと言われますが、他人というものはあてにならない、自分にとって完全に信用のできる、全く完全に安心ができてすがることのできるのは内部に宿る、全部の細胞をちやあんとかかしている、内部に宿る“コスミック・コンシャスネス”あるいは“パワー”そのことを自覚しようではありませんか！ ということも、今度私が呼びかけるわけですが、この猛烈な、強烈な自覚をですね、持って、そうして必ず実現するというイメージを描くならば、もう恐れるものは何もないはずで、必ず何かを、自分の描くイメージ、望ましいことは必ず実現しますし、それからおおよそ自分を傷つけるような、あるいは自分を恐怖におとしおこされるようなものはまず現われません。そういうものがあつてもですね、自分は巧みにそれをいつのまにかのがれて、はずれていくようなコースを歩んでであろうという事が言えるんです。この内部に宿るコスミック・コンシャスネス、これを意識することはもう、四六時中意識してないとダメである。超能力を開発する場合でも、まずその自覚が土台になるのである。そういうふうにしてですね、生きるならば、まず間違いのない生活がおくれるはずである。もう絶対的な自信ですね。これをお互いに持つことにしようではありませんかというふうに私は呼びかけたわけなんです。えー細かいことはまあ、アダムスキーの「生命の科学」「テレパシー」などをお読みになればおわかりになりますか、なかなか人間、読んだだけで、「ああ、これはいいなあ。」と思つたら、あと思つたら、もう本をほおり出して、普通の《利己的な》想念に変えてしまう——これじゃいけませんから、とにかく、人間として普通の、死人のような生き方じゃなくて、イエスが言っております「死者の棺をかつぐ死人」のような生き方《つまりエゴをおき出しにした利己的な生き方で、宇宙の意識に盲目であること》ではなくて

内部に宿る“宇宙の、創造主の生命”といいますが、そういうものを本当に自分の表面のマインドで、センスマインド《感官の心》で意識した生き方、これが本当のコズミック・マン——宇宙的な人間——だと思います。そういうふうな生き方をしようではありませんかというんですねエ。まずこれは私がやらないでいくら偉そうなことをいったって何にもなりませんから、もうずっとこの前あたりから私がそういう強烈な衝動を起こして、そういうふうな方向へ自分をもつていこうとしているわけなんです。まあ、私のやろうとしていることがもし間違っていたならば、とんでもないことが起こるはずですが、そういうことが起こりませんので、むしろ何か良い方向に私がずっと歩んでいるのではあるまいかというような気がするわけですねエ、気がするじゃなくて、必ず私、そうなると思っているんです。時間がまいりまして、どうもこれ以上ちょっと詳しく申し上げませんが、またそういうようなことで御質問がありましたら、私の自宅宛にです。——私の勤め先の会社に絶対よこされませんように、会社はもうGAPとは何の関係もありませんから、単なる営利企業体ですから、あそこへよこされませんようにして、私の自宅宛に郵便でよこされますならば、また御返事を暇のときをみて、御返事をさし上げます。どうも長い間、ありがとうございました。

久保田代表のあいさつは終った。すばらしかった。物音しない静寂さの中に、代表の宇宙的な声かひびきわたった。……(中略)……さらに、例年のごとく、UFOが現われた！一機は会場の真上を飛んだそうである。さらに、久保田代表の解説中、ずっとその後ろにアダムスキーが立っていたそうである——亀田先生の透視によれば——。〔PRSユニバーサルメッセージNo.3 P7~P9 ;現在のGAP山形支部の前身〕